人間社会学部の設置に関わって

文学部国文学科教授（創設時：文学部長）　湯 浅　茂 雄

人間社会学部（以下「人社」）の設置は、故澤井勇理事長と飯塚幸子前学長（第１２代）のもとで進められたが、当時、私は文学部長であり、学園理事の一員として設置に関わった。文学部長に就任して間もない時期であったが、この段階で、人社の設置申請は大詰めを迎えており、申請書類の分担執筆、教員人事、学内調整、学生募集に関わった。

この内、私に課せられた学内調整の任務は以下のようであった。人社の共通教育は、当初、既設学部の共通教育科目とは別に構成された。とは言え、一部の科目は、既設学部の共通科目を組み入れる必要があり、既設学部の共通教育の審議母体との調整が是非とも必要であった。最終的には理解を得られたわけだが、最初はこの調整は難航し、就任して間もない担当理事として、どうなることかと気を揉んだ記憶がある。現在は一元化され、本来あるべき姿となっていると考えるが、人社のご苦労とともに、ここに至る長い道のりを思う。

学生募集は楽しい思い出である。私が担当したのはオープンキャンパスの時期を活用した AO 入試であった。就任予定の先生と協力して面接を担当したが、受験生はみな意欲的かつ快活であり、開学一期生への期待が高まったし、結果的にもそうであった。私は文学部であり、開学後は、これらの学生たちと接する機会はなかったが、その後も人社の学生たちに親しみを感じてきたのはこの経験が大きいと思っている。

その後、人社は現代社会学科の新設も含め、全学をリードするような大きな発展を遂げている。今後のますますの人社の充実を祈念する次第である。